

詩篇117篇

- 1 すべての国々よ。主をほめたたえよ。すべての民よ。主をほめ歌え。
- 2 その恵みは私たちに大きく、主のまこととはとこしえに。ハレルヤ。

詩篇全篇の中で最も短い詩、聖書全体の中で最も短い章です。興味深いことに、旧新約聖書を合わせた全章の真ん中に当たるようで、様々な特徴を有しています。

神学校時代、宣教学の授業の中で「国々」「国民」「諸国」といったことばが出てきたら要注意だと言われたのを覚えています。これらのことばはイスラエルから全世界へと広がる神の恵みの約束を暗に示しており、さりげなく使われていながら重要なキーワードとなっています。117:1の中では「国々」(גוֹיִם／ゴーイーム)、「民」(עַמִּים／ハーウンマイム)と使い分けられていますが、ここに世界規模の宣教の思いが込められていることが読み取れるでしょう。しかも、彼らに呼びかけているのは「主をほめたたえよ」「主をほめ歌え」と、賛美の招きなのです。まだ賛美というものを知らない人々の口に、聖なる歌が与えられる。自分の創造主、救い主を知らずに生きているとき、人は賛美が何であるかが分かりません。賛美は救われることで真に賛美となる。しかし、教会ではまだ信仰に至っていない人が一緒に賛美歌を歌うことがあり、これは実に不思議なことであり、幸いなひと時、希望に満ち溢れた時だと感じるのです。まだ意味は分からないかもしれない、しかし賛美を歌い始めている。救いがそこに興り始めているのかもしれない。そんな感動を覚えながら、未信者の方が歌う姿を見つめてしまいます。

2節の中には二つの重要語、「恵み」(חֶסֶד／ヘセド)と「まこと」(אֱמֶת／エメス)が登場します。「ヘセド」ということばの基本的な意味は「善」「親切」「誠実」ですが、聖書的な文脈では「契約を一方的に守る」という意味が含まれています。神が不従順な民に対してさえ契約を守り続け給うた憐れみ深い性質です。そして、その「ヘセド」の基盤になっているものが「エメス」であり、これは「真実」「確かさ」「信頼性」「継続性」などの意味を持ちます。神はその一貫したご性質のゆえに、恵みを与えないではおられない方なのです。そのご性質をよく知っている者は、そこに訴えかけるとりなしの祈りをささげます。

そこでモーセは主のところに戻って、申し上げた。「ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。今、もし、彼らの罪をお赦しくださるものなら――。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」(出32:31-32)

これは、モーセが山にこもって神から民への契約のことばを受けていたときに民が金の子牛の像を作って拝んでいた事件が勃発したときに、彼がささげた祈りのことばです。直ちに滅ぼし尽くされても仕方がない民のためにこのように祈れるモーセとは、主をどのような方として見ていたのでしょうか。自分が神の書から消し去られることさえ求めるところには、彼のどんな信仰が現れていたのでしょうか。彼は、神が自分をも民をも捨てることはな

いお方であることを深く知っていたからこそ、このように祈り得たのではないのでしょうか。使徒パウロも同様の信仰に立って、迷える同胞のために祈りをささげています。

私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によつてあかしています。私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです。(ローマ9:1-3)

これらの指導者たちの壮絶な祈りを聞くと、私たちは彼らが信じた神の恵み深さにふれることとなります。イスラエルの民はその恵みを受けた特別な民でした。しかし、その恵みはひと所に留まることなく、全世界へと向かいました。それは、アブラハムに与えられた約束の中で既に語られていたことです。

わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ。あなたは多くの国民の父となる。あなたの名は、もう、アブラムと呼んではならない。わたしが、あなたを多くの国民の父とするからである。(創世 17:4-5)

宣教学の最初の講義の中で、先生から学生に「この講義に対して何を期待しますか？」という質問があり、一人ずつ答えました。そのとき私は「特に旧約の中でどのような宣教の計画と実現があったのかを知りたい」と答えたのを覚えています。今になってみれば、何とも愚問だったようにも感じます。宣教は新約時代に始まったものではありません。旧約聖書のはじめから連綿と続いている神のご計画であり、聖書とは「宣教の書」そのものなのです。そもそも、創世 1:28 の「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地に従えよ」という命令は、神の恵みを全世界に満たすべく立てられた人類の使命を表していました。それは罪によって著しく歪められてしまいましたが、贖われた者はもう一度この命令を解釈し直し、聖書全体に散りばめられた神の宣教のご計画に参加していくのです。詩篇 117 篇は、このメッセージを最も短く、力強く歌い上げた詩と言えるでしょう。